

# CDN リンク

React および ReactDOM は CDN を介して利用することができます。

```
<script crossorigin src="https://unpkg.com/react@16/umd/react.development.js"></script>
<script crossorigin src="https://unpkg.com/react-dom@16/umd/react-dom.development.js"></script>
```

上記のバージョンは開発のためのものであり、本番環境には適していません。圧縮・最適化された本番バージョンの React は下記のリンクから利用できます。

```
<script crossorigin src="https://unpkg.com/react@16/umd/react.production.min.js"></script>
<script crossorigin src="https://unpkg.com/react-dom@16/umd/react-dom.production.min.js"></script>
```

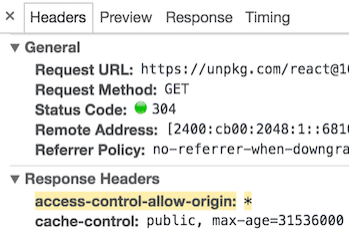
特定のバージョンの react と react-dom をロードする場合は、16 の部分をバージョン番号で置き換えてください。

## なぜ crossorigin 属性が必要なのか？

CDN を使って React の機能を提供する場合、`crossorigin` 属性を設定することをお勧めします。

```
<script crossorigin src="..."></script>
```

利用している CDN が `Access-Control-Allow-Origin: *` という HTTP ヘッダを設定していることを確認することをお勧めします。



これにより React 16 以降でより優れたエラーハンドリングを利用できます。

[このページを編集する](#)